



新ホームページ
スマホ対応

INDONESIA MISSION



発行：日本福音教会(JEC) インドネシアミッション

〒662-0896 西宮市上ヶ原六番町2-42 西宮福音教会内 Tel: 0798-51-5100

郵便口座：00970-3-313875 「インドネシアミッション」

HP: <https://indnesia.com>



ラマダン時期の市場の様子(日没後の断食明けに備えて市場が賑わうそう)

西カリマンタン宣教のためにお祈りと支えをありがとうございます。

インドネシアミッションでかかわっている現地の働き人達から一番教えられ、感謝しているのは「祈り」です。生きていくのに不確実な事が多く、必要も沢山あるので、彼らは祈らざるを得ない状況にあるというのがありますが、それと同時に建国五原則の第一番目が「唯一神への信仰」である事も影響してか彼らの信仰心には厚みを感じます。

日本のためにも本当に良く祈ってくれています。支える会のメンバーのいやし、神学校の祝福、日本の魂の救いなどなど。先日ATI神学校のディナル先生に、「今年8月末にミッショントリップで行きます」と伝え、「ATIで今から祈っていきます」と言ってくれました。本当に祈ってくれるとわかっているのでも心強いです。

インドネシアミッション代表 高橋めぐみ



関西聖書学院(KBI)
玄関の桜と一緒に

ブンカヤン・ベラカ寮 JGEC日本語学校開設へ向けて -千河川の

今回はブンカヤン・ベラカ寮とトゥバスという場所で日本語学校開設と働きを協力してくださっているJGECをご紹介します(高橋めぐみ)

ジャヤディ・グローバル教育センター(Jayadi Global Education Center、略JGEC)は、2019年に設立された日本語教育機関で、現在インドネシア国内に20分校を持ち、約500人の卒業生が日本で就職しています。JGECは日本語教育コースと特定技能分野(農業、飲食料品製造業、宿泊、外食業、介護)の教育コースを提供しています。

JGECのこの教育コースは、2019年に日本政府が始めた特定技能を持つ外国移住労働者の合法的な労働ビザ制度に応じるためのものです。今まで、多くのインドネシア移住労働者(PMI)はインドネシアでの雇用機会が少ないため、日本で働くことに興味を持っています。残念なことに、この人たちの多くは騙されて、最終的に不法滞在の労働者として働かされてしまいました。その結果、多くの移民労働者は劣悪な待遇を受け、その賃金は日本の最低賃金基準を下回っています。したがって、JGECはインドネシアと日本の労働力問題とニーズに応えるために設立されました。

2024年、インドネシアミッションとJGECは協力して、インドネシアの西カリマンタン州ブンカヤン県にあるベラカ(Berakah)寮に日本語教育拠点を設立しました。この地域はかつてサンバス地区でした。

JGEC
Agi-agi! Warga Borneo
Kelas JGEC sudah buka di Bengkayang, Kalimantan Barat
Ayo belajar bahasa Jepang, raih kesempatan kerja karir impian ke Jepang
Daftar sekarang! Ajak teman-temanmu untuk ikut belajar bersama
INFO LEBIH LANJUT HUBUNGI | Gideon 0858-2006-9321

ベラカ寮・日本語学校の案内



プニティ教会・奨学生の証し

タンジュンプラ大学 シャオリン姉

まず初めに、タンジュンプラ大学での学びのために奨学金支援してくださった日本の皆様へ心より感謝します。私の人生で神様がどのように助けてくださったかを証ししたいと思います。

大学入学当初はすべてが順調に進みましたが、1年生後期に入った2020年2月7日に友人とバイクに乗っていたとき交通事故に遭うことを神様は許されました。その事故で友人が亡くなり、とても悲しかったです。又私は頭の大手術をしなければならなくなり、大学を休学せざるを得なくなりました。その時、私は自分の将来がとても不安になりました。普通に卒業して就職しなければと考えていたからです。しかし神様はそうではないとおっしゃいました。私を回復させてくださった神様の奇跡と助けは本当に素晴らしかったです。私は頭と口蓋に亀裂があったので手術を受けなければならなかったのですが、医師は、手術は成功するかもしれないが失敗するかもしれない危険があると言いました。そして手術の途中では、そのまま手術を続ければ命が失われるか目の一部が見え

なくなる危険が生じて、医師は再度手術の同意を家族に求めました。しかし、手術は成功し現在に至っています。ハレルヤ！人間にとっては到底不可能なことでも、神様にとっては本当に可能であるということを証しします。大学で他の友達に遅れをとったらどうしよう、友達は卒業して働いているのに私はそうではない、などと自分の将来を心配していました。しかし神様は私の祈りにすべて応えてすべて備えて下さいました。私は、「神様の計画は決して失敗は無い、常に時になかった素晴らしいものである」と声を大きくして言いたいです。



州に恵みをもたらす働き-

JGEC事務局長 リフンさん

ヤンの住民の大部分はキリスト教徒とカトリックで、ダヤック族、華人、マレー人などさまざまから構成されています。

JGECブンカヤン分校は、男子寮6室と女子寮6室をベラカ寮と提携しています。寮の中央にはのクラスとして使われるメインルームがあり、Berakah寮という名前は、祝福を意味するヘブラ語ברכה(berakhah)に由来しています。インド・ミッション(ベラカ寮)とJGECとのこの共プログラムを通じて、ブンカヤン、西カリマンタン、ネシア、そして日本にとって祝福となることがれています。私たちは、次の神様の命令は、場を主の民すべてに対する召しであると信じています。すなわち、「わたしがあなたがたを引いてその町の繁栄を求め、そのために主に祈れ。繁栄は、あなたがたの繁栄になるのだから。」

(エレミヤ書 29:7)です。さらに、JGECのプログラムは、ブンカヤン県の地元のモットーである「アディル カタリノ、バクラミン カサルガ、バセンガット カ ジュバタ」(ダヤク・カナヤン語)にも沿っています。これは、他者への奉仕は公正であるべきであり、すべての行為や行動は常に善を反映し、常に神様に導かれているべきであることを意味します。

JGEC はブンカヤン以外にも、サンパス県トゥバス(Tebas)地区にも分校を開設しました。現在、JGEC ブンカヤン分校と JGEC Tebas分校が準備中です。私たちは、日本にいらっしゃるクリスチャンの兄弟姉妹の皆さんが引き続きインドネシアミッションとJGECの協力プログラムを支援して、祈ってくださることを願っています。ただ神様にのみ栄光がありますように。



YPPIとJGECの提携を記念して
左：リフンさん、中央：ローランド氏

カリマンタン島西部地図



●族への宣教 タヨナ氏

イドル・フィトリとは、1か月の断食期間(ラマダン)に飢えや渇き、あらゆる欲望を抑えることができたムスリムにとって勝利の時です。この日に、イスラム教徒の神アラーは祈りを捧げる人々に許しを約束します。また、イドル・フィトリとは預言者ムハンマドにコーランが啓示されたことを記念する日でもあります。この日はレバランとも呼ばれ、宗教的なお祝いであると同時に、大家族が集まる貴重な機会でもあります。毎年待ち望まれるこのお祝いの時は、家族の絆と親交がより深まり豊かになる時でもあります。

この機会に、私たちは3月30日から4月5日まで車をチャーターして、ST市、ANJ市、MM市、SK市、SB市に住む●族の平安の人々を訪ね、友好を深めました。そして与えられたチャンスには彼らに福音を分かち合いました。



心を開いて共に
祈りました

続けて●族からイエス様を信じて救われる人が起こされるようにお祈りください。



癒しのために祈るタヨナ氏

【お知らせ】

25年10月初めにタヨナ氏が来日します
お祈りに覚えてください

10月5日(日)

午前 東京グレイス福音教会礼拝奉仕

午後 ●族宣教報告会

10月12日(日)

午前 堺福音教会礼拝奉仕

午後 ●族宣教報告会

今夏もミッショントリップを開催します。今回は応募締め切りでしたが、今後も定期的に関わりたいと思っています。異文化を体験した人たちの声をお届けしますので、次回開催を見逃さずに！（高橋めぐみ）

山下叔子

移動する時のことです。「朝からバイクで行ったら、屋には戻って来れます。」と言われ、私たちはその言葉を信じて出掛けました。急な傾斜の山道、凸凹の細い道を、地元の方のバイクの後ろに乗って移動します。私は落ちないように必死で掴まっていた。お屋を過ぎて、やっと村に着きました。「すぐそこにコーヒー畑があるよ。」これを聞いて、見に行くことになりました。これがまた、なかなか着かないのです。行けても帰りがあるのでは…？しかしインドネシアの人は、誰も私のようにヤキモキしません。不思議な感じがしました。旅が進むうち、人と出会い、分かってきたことは、「すぐ着く（時間）」「すぐそこ（距離）」の感覚が全然違うということでした。インドネシアの人の明るさがふっと奥行をもって感じられて、よい経験となりました。

檜垣正裕

私にとってのインドネシアの衝撃は、25年前のKBIアウトリーチ・マレーシア訪問にさかのぼります。インドネシア・カリマンタンではなく、国境を隔てたボルネオを訪問しました。呼び名が違うだけの同じ島、部族もカリマンタンのダヤク族とほぼ同じイバン族だったので許してください。

旅のはじめ、チームは村に行くため迎えのボートを待っていました。しかし待てど暮らせど迎えが来ません。空しく6時間が過ぎ、ついに船は来ませんでした。それだけでも驚きですが、引率の現地の牧師が「じゃあ別の村に行こう」と言い出しました。そんなんでいいの??? 日本なら、宣教チームが時間通りに来ないことは事件です。それを連絡もなく（連絡手段もないのですが）勝手に行き先を変えていいのか？けれどもそれでいいのです。旅は何の問題もなく進みました。自分の常識が取り払われた瞬間でした。

富浦信幸

乗り継ぎのクアラルンプール空港のとてつもない広さ。(2019年のミッショントリップの際、乗り遅れました。笑)。舎監たちが川でタニシを捕る際のとてつもない速さ(味も抜群に美味しい。)道なき道をとてつもない速さで駆け抜けるバイクの運転技術。ネリ姉が作るナシゴレンのとてつもない美味しさ(通称ネリゴレン)。礼拝10分前に「信幸先生、メッセージをお願いしますね～」

と何食わぬ笑顔でお願いされためぐみ先生のとてつもないインドネシア魂。大晦日の夜、とてつもなく雄大な自然の中、とてつもなく積み上げられた薪に火をつけ、とてつもなく燃え上がるファイヤーを見つめながら、寮の舎監や子ども達と夜通し賛美し祈り合ったとてつもなく大きな恵み。どれも忘れることのできない衝撃的な体験でした。



美味すぎるタニシ



すぐそこ？コーヒー畑への道中

山下順

高原野菜を育てる可能性を探るのがミッショントリップに参加した大きな目的だった。「畑を買ったんだ」と誇らしげに語る舎監(寮の責任者)のヘルマヌスさん。どんな畑だろうと、高まる期待を胸に案内してもらった。バイクで小一時間。畑に近づくに連れ、なぜか煙が立ち込めてくる。「ここが僕の畑」嬉しそうなヘルマヌスさんが案内してくれたのは、木を焼き払っている最中の山。「どこが畑やねん」と、苦笑いしか出ない僕。彼らにとっては木を焼き払った山はもう畑。ある程度の想定外を想定していたけど、ここまでは想定していなかった。「何もできへんからとにかく祈ろう」「もしカリマンタンで野菜を育てたらどうなるんだろう」この衝撃は不思議と今も残る思いに繋がっている。



目の前燃えてますけど・・・



木の組み方が縦に長いから火が燃え上がる仕組み

ー 祈りのリクエスト ー

ATI神学校

- ◎ATI神学校のスタッフと経済の祝福と神学生のために
- ◎アンテオケ館（宣教師館）雨漏り対策など改修工事は終了しました。感謝！

中高生寮（3つの学生寮共通）

- ◎子ども達の教育、霊性、生活指導が良くなされていくように
- ◎指導する舎監達の守りと霊性のために

エンティコン・グロリア寮Ⅰ&

スルートゥンバワン・グロリア寮Ⅱ

- ◎グロリア寮Ⅰ、Ⅱ舎監の人事異動を予定しており、グロリア寮Ⅲに人材が必要です。奥地に適應できる良い伝道実習生に来てもらうことができるように

ブンカヤン・ベラカ寮

- ◎ブンカヤンの日本語学校の準備が進むように。良い宣伝をして生徒が集まるように
- ◎JGEC（日本語学校）事業主のステファンさんの健康が守られるように

グンジュマ村・ボルネオ幼稚園

- ◎政府（サンガオ県）の認可手続きが進むように
- ◎園長ネリ、教師たちに祝福と知恵が与えられるように
- ◎グントゥンバワン村の分校も祝福されるように

プニティ・アナスタシス教会

- ◎フレンキー牧師、スシー夫人が学校で教えている華人の生徒たちに福音が伝わるように
- ◎教会員の霊的成長と祝福のために

沿岸部族への働き

- ◎タヨナ氏がイドルフトリに訪問した人達、イエス様を信じた人達を主が続けて導いてくださるように
- ◎10月のタヨナ氏来日の手続きと、10/5(東京)と10/12(堺)での礼拝・宣教集会の準備のために

その他

- ◎8/19-28のカリマンタンミッショントリップの準備、守り、祝福のために。現在参加者12名予定(引率者含む)
- ◎西カリマンタンに宣教師が遣わされるように
- ◎現地の毎月の運営費用が満たされるように

クリスチャンパートナーズについて

クリスチャンパートナーズ
理事長 木ノ内一雄師

奥地の中学・高校生、教員・看護師を目指す学生、神学生たちは、クリスチャンパートナーズからも長い間沢山の支援していただけてきました。今回、そのクリスチャンパートナーズについて紹介致します(高橋めぐみ)

私たちの活動は1984年から始まりました。米国パートナーズ代表 アレン・フィンリー師の来日に伴い、米国で留学中に同師夫妻にお世話になった方々が発起人となり、私たちも何か途上国のために貢献出来るのではないかと組織されたものです。1986年、インドネシア西カリマンタンのボンティアナクにあるスラムを訪ねる機会が与えられ、それ以来、シンガポールの組織を通してこの地域の子供たちへの学費援助が主な活動となりました。



クリスチャンパートナーズ理事
(前列左から2番目が木ノ内理事長)

インドネシアを選んだのは、太平洋戦争中日本の軍政下であって、過酷な日々を送った人々の対日感情に考慮したからです。2011年から私たちの活動はガーナに広がり、また、2017年にはラオスとミャンマーを訪問する機会が与えられました。それ以降、メコン川流域の人々への援助も考えるようになっていきます。

私たちの働きは微々たるものですが、日本から送る学費が子供、学生、神学生に少しでも勉学の機会を与えることが出来、又、現地の人たちの進めている発展プロジェクトに少しでも寄与することになるなら素晴らしいことだと思っています。皆様のご協力により活動の継続を願っています。

クリスチャンパートナーズで支援を受けていたキー。現在は、バダットラマ村で小学校の教師をしている

